

# 文化財保護センターだより

第22号

平成10年7月1日

財団法人 岐阜県文化財保護センター

〒502-0003 岐阜県岐阜市三田洞東1-26-1

TEL 058-237-8550(代)  
FAX 058-237-8551

## ●もくじ

表紙 県下初 古墳時代の堰を発見……………1  
挨拶 新たな思いで更なる飛躍を 村木光男理事長……………2  
組織 平成10年度組織  
・事業計画……………3

トピックス 本部が三田洞へ移転……………4,5  
発掘調査 各発掘現場より……………6,7  
セミナー タイムスリップ探検隊員募集他……………7  
紹介・記録 収蔵遺物紹介・センター日誌他……………8



堰の補強材と考えられる綱代

## 県下初 古墳時代の堰<sup>せき</sup>を発見!

昨年度可児郡御嵩町において顔戸南遺跡<sup>ごうどみなみ</sup>の発掘調査を行ったところ、古墳時代の河川の中から約36mにわたって堰が発見されました。堰は現在のダムのような役割を果たし、杭などで水をせき止め、水位を上昇させることにより他方向に導水するための施設です。

堰は共に出土した土器の年代から約200年間存続していたことが判明し、幾度にも及ぶ改修・補修が行われた痕跡も確認されました。また、草などを丁寧に編んだ綱代もみつき、当時の灌漑施設が解明される貴重な発見となりました。

## 新たな思いで更なる飛躍を



(財)岐阜県文化財保護センター  
理事長 村木 光男

この4月より岐阜県文化財保護センターに勤務することになりました。本年度、当センターは7月に岐阜市三田洞への本部移転を行い、新たな歩みを踏み出す記念すべき年となりました。事業の一層の発展・活性化をめざして努力してまいります。よろしくお願いいたします。

平成3年4月に岐阜県文化財保護センターが発足しました。設立までの経過については、当時の文化財係長であった丸山幸太郎先生の文章に詳しく紹介されています(きずな19号：平成9年7月1日発行)。当初、13人でスタートした職員も、今年度は58人となり、この7年間に事業が大いに発展しました。

発掘調査については、徳山ダム建設、東海北陸自動車道建設、東海環状自動車道建設、丹生川ダム建設、VRテクノジャパン開発、ソフトピアジャパン建設等に関わって実施してきました。そのなかで、いくつかの新しい知見を得てきました。

こうした成果は、『報告書』の刊行という形で行ってきました。また、速報展として、『いにしへの飛騨展』、『いにしへの美濃と飛騨』、『よみがえる縄文の世界』、『土に刻まれた古代・中世』を開催し、多くの県民の方々にご覧いただいております。

『タイムスリップ探検隊』は、小学生とその親で発掘体験をし、埋蔵文化財に対する関心を高める行事です。県内各地で行い、大変好評をいただきました。

事業内容とともに、調査体制も充実してきました。平成5年には、飛騨地方の調査の拠点となる出張所を開所。平成7年、国府町に移り、平成8年に新庁舎を建設しました。

また、平成6年4月に本巣郡穂積町牛牧から岐阜市(岐阜総合庁舎内)へと移り、今年度、岐阜市三田洞の旧警察学校跡地へ移転した本部は、今までと異なり、ゆったりとしたスペースを確保しています(4・5頁参照)。当分の間、じっくりと腰を落ち着け、調査に取り組む体制が敷かれました。

こうした新しい環境で、今年度の事業を進めています。

県内11市町村16カ所の発掘現場では約360名、4つの整理作業所では、約90名の作業員さんが働いています。炎天下で額に汗しての発掘作業、遺物の実測など神経を使う整理作業など多くの方々の力で、すばらしい成果が上がっています。

成果を、7月の岐阜県発掘調査報告会、1月の県博物館における速報展で、発表していきます。また、荒尾南遺跡から出土した線刻土器は、文化庁主催の『新発見考古速報展：発掘された日本列島'98』に岐阜県としては初の出品をし、全国を巡回します。

何万年にもわたる祖先の歩みを、土の中から掘り出し解明する作業は、携わる者の情熱だけではできません。事業主、県当局、市町村関係者をはじめ多くの方々のご理解、ご協力があってこそできています。

職員一同、今一度気持ちを新たに、センターの事業に取り組んでまいります。

平成10年度の組織(平成10年6月現在)

役員		
会長	梶原 拓	(岐阜県知事)
副会長	森元 恒雄	(岐阜県副知事)
理事長	村木 光男	
専務理事	原 隆男	
常務理事	石黒美智雄	
理事	浅野 勇	(岐阜県市長会会長)
理事	中井 勉	(岐阜県町村会会長)
理事	後藤左右吉	(岐阜県都市教育長会会長)
理事	平野 敬	(岐阜県町村教育長会会長)
理事	大野 政雄	(岐阜県文化財保護審議会会長)
理事	高橋 新蔵	(岐阜県総務部長)
理事	森井 季雄	(岐阜県農政部長)
理事	小島 秀俊	(岐阜県土木部長)
理事	船坂 勝美	(岐阜県開発企業局長)
理事	日比 治男	(岐阜県教育委員指導部長)
理事	衣斐 基夫	(岐阜県博物館長)
理事	高田 晃	(岐阜県総務部参事)
理事	棚橋 文晴	(岐阜県副出納長兼出納事務局長)
理事	岩崎 幸宏	

職員		
理事長	村木 光男	
専務理事兼事務局長	原 隆男	
常務理事兼経営部長	石黒美智雄	
経営部次長兼経営課長	平林 哲男	
経営部	課長補佐	渡辺 紀和
	主任	板津 由子
主任	水谷 吾郎	
	宮部 直子	
事務補助	須甲 出香	
	山元 敏治	
調査部	部長	高橋 幸仁
	次長	高橋 祐輔
第1課	課長	坂東 肇・竹中 一秋・阿部 昌史
	課長補佐	浅野 哲男・河瀬 実浩・三輪 晃二・近藤 大興
第2課	学芸主事	片桐 隆彦
	課長補佐	堀 真・藤岡比呂志・笹木 幸司・岡田 吉孝
学芸主事	堀 正人・堀 英男・野村 元次・村瀬 泰啓	
	後藤 慎二・小堀 康真・松岡 千年・春日井 恒	
第3課	課長	小淵 忠司・澤村雄一郎・長谷川幸志・安田 正枝
	課長補佐	幡康 隆雄・富田 雅之・高屋 嘉文・千藤 克彦
学芸主事	早野 壽人・小谷 和彦	
	堀田 一浩・成瀬 正勝・青木健太郎・藤田 英博	
事務補助	小野木 学・堀子 誠	
	松原 明香	
飛騨出張所 所長	伊藤 秀雄	
	課長補佐	上原 貞昭・上出 巳吉・上嶋 善治・八寶 哲夫
主任	山口 陽一	
	齊藤 由宏	
事務嘱託	政井 美子	

平成10年度の事業計画

事業名	事業者名	調査地	遺跡名	時代等
徳山ダム建設事業 埋蔵文化財発掘調査・報告書作成	水資源開発公団 徳山ダム建設所	藤橋村	塚奥山遺跡 七平城跡 戸入村ノ内遺跡 小谷戸遺跡 上原遺跡	縄文時代の集落跡 中世の城郭跡 縄文時代の集落跡 縄文時代の遺物散布地 縄文時代の集落跡
主要地方道岐阜関ヶ原線道路改良工事 埋蔵文化財発掘調査・報告書作成	岐阜県土木部 揖斐土木事務所	池田町	高畑遺跡 二ノ井遺跡 南高野古墳 市場遺跡	古代寺院関連遺構・遺物散布地 古代・中世遺物散布地 後期古墳 縄文時代・中近世の遺物散布地
関ヶ原バイパス建設 埋蔵文化財発掘調査	建設省岐阜国道 工事事務所	関ヶ原町	野上遺跡	弥生時代・中近世の遺物散布地
県営中山間地域農村活性化総合整備事業 埋蔵文化財発掘調査・報告書作成	岐阜県農政部揖斐 土地改良事業所	春日村	岩井谷遺跡 細野遺跡 梨子谷遺跡 千日遺跡 宮上遺跡	縄文時代の集落跡 縄文時代の遺物散布地 縄文時代の遺物散布地 縄文時代・中世の遺物散布地 縄文時代の遺物散布地
東海環状自動車道(関～美濃加茂)建設 埋蔵文化財発掘調査・報告書作成	建設省岐阜国道 工事事務所	美濃加茂市	大坪遺跡 諸洞遺跡 佐口遺跡 針田遺跡	中世の遺物散布地 近世の陶磁器の散布地 古代・中世の集落跡 古代の上師器・須恵器散布地
東海環状自動車道(八百津～笠原)建設 埋蔵文化財発掘調査	建設省多治見 工事事務所	土岐市 御嵩町 可見市	穴弘法3号古窯跡 額戸南遺跡 柿田条里跡	平安時代中期の古窯跡 古墳時代・古代・中世の遺構遺物散布地 条里遺構・古墳時代遺構
土岐プラズマ・リサーチパーク 第一土地区画整理事業 埋蔵文化財発掘調査	住宅都市整備公団 東濃宅地開発 事務所	土岐市	穴弘法3号古窯跡	平安時代中期の古窯跡
関テクノハイランド開発事業 埋蔵文化財発掘調査・報告書作成	岐阜県 土地開発公社	関市	下有知遺跡群 (仮称)	弥生時代～中世の古墳・古窯・集落跡等
VRテクノジャン開発事業 埋蔵文化財発掘調査・報告書作成	岐阜県 土地開発公社	各務原市	船山北古墳群 船山北古窯跡群	後期古墳 古代・中世の古窯跡
一般国道 248号線道路改良工事 埋蔵文化財発掘調査	岐阜県土木部 可茂土木事務所	美濃加茂市	野篁遺跡	縄文時代～中世の集落跡
県営農林漁業用揮発油貯蔵 身替農道整備事業乙種2期工事 埋蔵文化財発掘調査・報告書作成	岐阜県農政部志那 土地改良事業所	坂下町	ホヤの木古墳	後期古墳
高山国府バイパス建設 埋蔵文化財発掘調査	建設省高山国道 工事事務所	高山市	冬頭城跡	中世の城館跡
障害者総合リハビリテーション センターはとびあ(仮称)建設 埋蔵文化財発掘調査	岐阜県 土地開発公社	下呂町	上ヶ平遺跡	縄文時代・古代の集落跡
主要地方道河合神岡線道路改良工事 埋蔵文化財発掘調査	岐阜県土木部古川 土木事務所	古川町	太江遺跡 (仮称)	古墳時代・古代の遺物散布地
県営中山間地域農村活性化総合整備事業 埋蔵文化財発掘調査	岐阜県農政部飛騨 土地改良事業所	丹生川 村	岩垣内遺跡	縄文時代の遺物散布地

## 三田洞へ引っ越しました



(財)岐阜県文化財保護センター本部 (南西方向より)

このたび、(財)岐阜県文化財保護センター本部が、岐阜市司町(岐阜総合庁舎内)から岐阜市三田洞へ移転しました。当センターは平成3年4月1日に発足し、本巣郡穂積町牛牧に本部を設置しました。

その後、平成6年4月1日に岐阜市司町岐阜総合庁舎へ移転。そして今回、より望ましい環境を求めて新本部を岐阜市三田洞に設置することになりました。

膨大な量の遺物や写真、図面等の引っ越しは大変でしたが、新本部を取り囲む緑豊かな自然は、その苦労も忘れさせてくれるほど素晴らしいものです。また、今までとは比べものにならないような広い収納スペースが確保出来ることも大きな魅力で、それを有効に活用しようと職員一同いろいろと知恵をしぼっているところです。



大量の遺物を搬入している様子



三田洞整理棟の前で

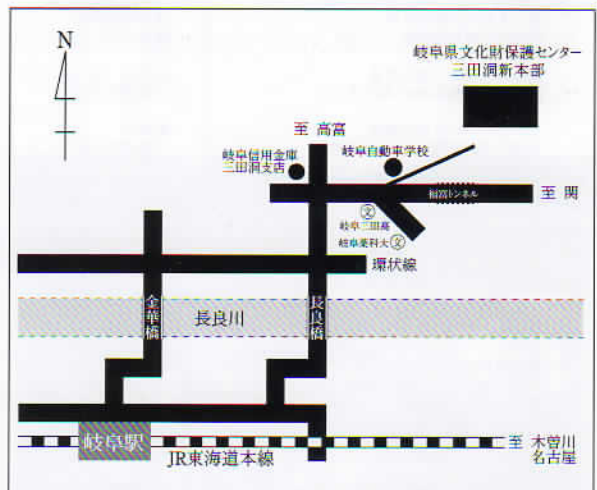
本部移転に先立って、三田洞整理棟が完成し、4月20日から整理作業が始まりました。今年度は、4棟のプレバブに分かれて8現場の整理作業を行う予定です。整理作業を進めていくうちに今までにない貴重な資料が見つかるかもしれません。そんな時には、いち早くこの「きずな」でお知らせしたいと考えています。

なお、新本部の住所等は以下のとおりです。

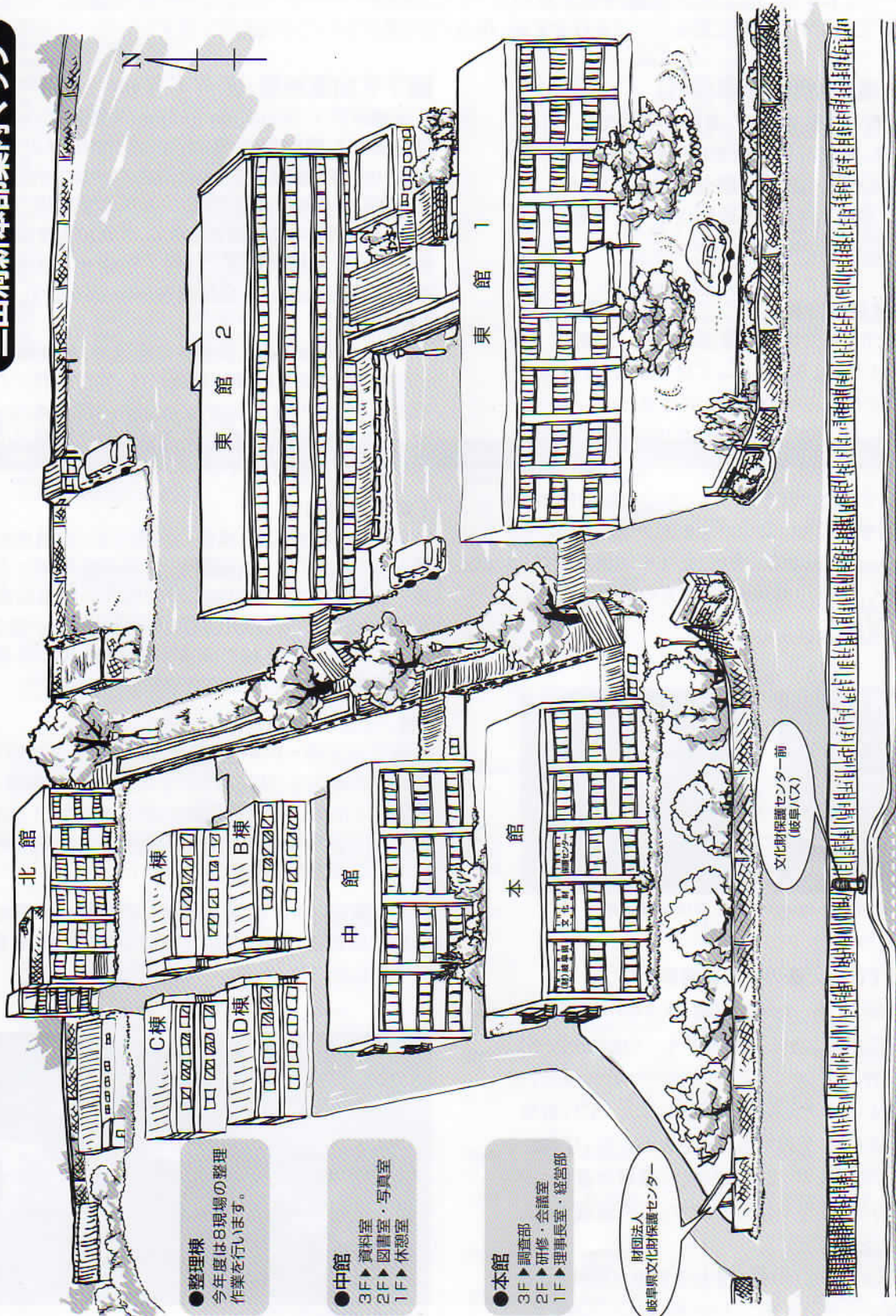
〒502-0003 岐阜市三田洞東1-26-1

TEL / 058-237-8550 (代)

FAX / 058-237-8551



三田洞新本部案内マップ



●整理棟  
今年度は8現場の整理  
作業を行います。

●中館  
3F▶資料室  
2F▶図書室・写真室  
1F▶休憩室

●本館  
3F▶調査部  
2F▶研修・会議室  
1F▶理事長室・経営部

福富トンネル

至高富

# 発掘調査状況



当センターでは本年度、地元関係諸機関や多数の方々のご協力をいただき、県内11市町村16遺跡で発掘調査を実施しています。調査は始まったばかりですが、現在の状況についてお知らせします。

## ■塚奥山遺跡(揖斐郡藤橋村)

福井・滋賀との県境のこの遺跡での調査も、3年目を迎え、現在、縄文時代中期末から後期始め(今から約4,000年ほど前)の遺構の調査を行っています。

ここでは、環状に連なる十数軒以上の住居跡と、いくつかの配石遺構が見つかっています。

### 『環状をなす住居跡群』

写真1のような竪穴住居跡が、少なくとも十数軒以上、ちょうどドーナツのように連なって見つかっています。不思議なことに真ん中の部分からは見つかりません。このあいた場所は、「広場」などの共同で使う場所とも言われています。全ての住居が同じ時期に建てていたわけではないので、少なくともこの真ん中の場所には住居を建てないような「きまり」があったのかも知れません。。このような「環状」をなす住居跡群は、東日本に多く、塚奥山遺跡もこの地方の影響を受けていると考えられます。



写真1 第8号住居跡



写真2 第12号埋設土器

### 『この地域では最大級の配石遺構群』

この「広場」のあった場所には、大きな川原石を集め円のように並べた配石遺構がいくつかあります。配石遺構は、仲間で「まつりごと」を行った場か、あるいは墓ではないかと考えられています。また、配石遺構の中や近くからは、土の中に埋め込んだ土器(写真2)が見つかっています。これらの配石遺構は直径4~5m程のものがいくつか集まっており、この地域ではとてもめずらしいものです。

縄文時代の「むら」の様子を知る貴重な資料となる塚奥山遺跡の今年の調査に、大きな期待がふくらみます。

## ■下有知遺跡群(関市下有知)

本遺跡群は、関市北部の丘陵上に位置しています。発掘調査は、関テクノハイランド建設事業に伴うものです。平成7・8年度の試掘調査と小和田遺跡(中世の水田跡)、平成9年度の砂行遺跡(弥生~古墳の集落跡、大溝、古墳、火葬墓)の発掘調査を経て、平成10年度は、「青柳地区」、「深橋前地区」、「檀ノ木洞・小和田地区」の3つの地区について発掘調査を行っています。

### 【青柳地区】

「砂行遺跡」の南に隣接する地区で、試掘調査時に尾根頂上部には古墳、谷部には、弥生時代から古墳時代の土器片を多数含む包含層が確認されています。「砂行遺跡」と同様に、谷周辺部に住居跡が広がる可能性を考えています。

### 【深橋前地区】

中央の谷を挟んで、東西の斜面に多くの遺構が期待される地区です。試掘調査で、谷の最奥部に古墳時代後期の古墳、東斜面に平安時代の灰釉陶器の窯跡、西斜面に奈良時代以降の火葬墓などが確認されています。また今後の調査で、古墳時代の集落跡が東西両斜面に見られると思います。

### 【檀ノ木洞・小和田地区】

竪穴住居跡が97軒発見された「檀ノ木洞遺跡」に隣接する地区で、試掘調査により土師器、須恵器、灰釉陶器が出土し、竪穴住居跡が2軒確認されています。低湿地には中世の水田跡、丘陵裾部には集落跡が存在する可能性を考えています。

この調査を通じて、周辺遺跡との関係や中濃地域の歴史的な位置づけについて検討していきたいと思っています。



深橋前地区発掘作業の様子



■岩垣内遺跡 (大野郡丹生川村)



岩垣内遺跡、発掘作業の様子

小八賀川上流右岸に流れ込む谷川に沿って3kmほど坂道を登り詰めると、戸数20軒余りの板殿の集落があります。山間にこのようなところがあったのかと意外に思うほど、空が広くのどかな風景が広がっています。

遺跡はこの集落東端の高台に立地し、乗鞍岳を目前に見ることができます。標高は約900mで村内の縄文遺跡の中でも比較的高所に位置しています。

古くから遺跡の存在は知られており、縄文時代中期から晩期までの遺物が出土していました。また、当遺跡の周辺には他に3ヶ所の縄文遺跡が知られており、板殿地区一帯が縄文時代の人々の生活の場であったことがうかがわれます。

5月中旬から始まった調査では、縄文時代中期後半から後期前半(4500年～3500年前)の土器や石器が多く出土しています。縄文時代中期の土器は関東や中部高地に分布の中心がある土器と同じ特徴を持っています。

調査は始まったばかりで詳しくは不明ですが、住居跡と思われる遺構が10ヶ所余り見られます。遺構内には炉石と思われる石組みがあったり、「埋甕」と呼ばれる住居入り口の地中に埋めた土器があったりします。また、今後の調査によって、遺構の並び方などから集落全体のかたちなどが推定できる可能性もあります。

昭和40年に行われた大がかりな耕地整理によって壊された部分もありますが、調査区の西側は遺跡の残りが良いと思われ、今後の調査が期待されます。

センターニュース



◎タイムスリップ探検隊員募集案内  
～親子で発掘体験をしてみませんか!～

- 【日 時】 平成10年8月5日(水) / 小雨決行
- 【場 所】 岐阜県古川町太江 太江遺跡
- 【対 象】 岐阜県内の小学5・6年生と保護者
- 【定 員】 50名
- 【締 切】 7月15日(水)
- 【申 込】 はがきに住所・氏名・年齢・性別・学校名・電話番号を明記して、次の所へ申し込んでください。

【宛て先】 〒509-4122  
吉城郡国府町名張字峠1425-1  
(財)岐阜県文化財保護センター飛騨出張所  
TEL(0577)72-4784

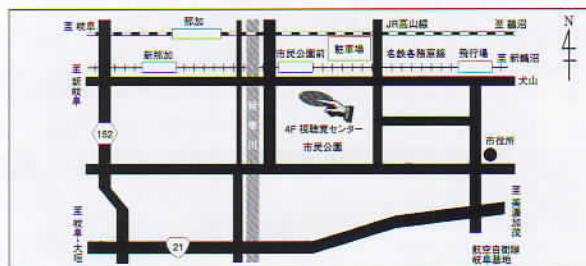


◎'98岐阜県新発見考古速報  
(岐阜県発掘調査報告会) 迫る!

岐阜県における平成9年度の発掘調査は、33市町村58遺跡で実施されました。この調査の成果を広く公開するために、今年も報告会が以下の通り行われます。ぜひ会場へお越しください。

- 【日 時】 平成10年7月18日(土) / 午後1時～午後5時
- 【場 所】 各務原市視聴覚センター  
各務原市那加門前町3-1-3 TEL 0583-83-1123

- 【内 容】 ○事例報告
  - ・御嵩町 「顔戸南遺跡」
  - ・大垣市 「松遺跡」
  - ・関市 「砂行遺跡」
  - ・各務原市 「熊田山北古墳群」
- 講演  
講師 八賀 晋 三重大学名誉教授



## ■ 収 蔵 遺 物 紹 介

紹介



## センター日誌

- 2.5 春日村教委森教育長、岩井谷遺跡視察
- 10 東大阪市文化財協会別所氏、岩井谷遺跡視察
- 12 富山大字野教授、野上遺跡指導
- 18 産業医井奈波氏、下有知遺跡群視察
- 24 岐阜大早川助教授、下有知遺跡群指導
- 25 名古屋大渡辺教授、顔戸南遺跡指導
- 3.9 市川考古博物館領塚氏、国府整理所視察
- 11 穂積整理所からの搬出開始
- 18 大野町文化財保護協会、穂積整理所視察
- 20 龍谷大岡崎助教授、国府整理所指導  
理事会
- 27 整理作業仕事納め
- 31 篠田理事長他10名退任
- 4.1 村木理事長他15名着任
- 7 整理作業仕事始め
- 8 遺物等の三田洞整理所搬入開始
- 20 三田洞整理所開所
- 22 揖斐川町教委久保田教育長、揖斐川整理所視察  
垂井町教委室教育長、穂積整理所視察
- 28 中濃西高傍島教諭・生徒40名、下有知遺跡群見学
- 5.12 八賀三重大名誉教授、三田洞整理所指導
- 15 調査部研修会
- 20 県教委文化課清水・川部氏、下有知遺跡群視察
- 21 可児市ケーブルテレビ、柿田条里跡取材  
県教委川部氏、三田洞整理所視察
- 26 県教育センター国定氏、佐口遺跡視察
- 28 奈良大泉教授、塚奥山遺跡指導

写真の土器は戸入村平遺跡（岐阜県藤橋村）の第4号住居跡より出土した縄文時代中期後葉（今から4300年ほど前）の土器です。

口縁部文様は外側に張り出す立体的なもので、「美濃の火炎式土器」と呼ぶ人もあるほどです。当地域で最も装飾技法の発達した時期の土器です。

口縁部は、稜線の部分に細い粘土紐を貼り付けて、その中を斜めの沈線でうめており、胴部にも粘土紐の貼り付けや斜めの沈線がみられます。

口縁の内面には、蓋受け状の段がみられます。

底部の欠けているのが残念ですが、口径約34cm、現存器高約36cmを測ります。

## \*火炎式土器

新潟県を中心に東北地方南部、北陸・中部地方の一部など、比較的限られた地域に特殊的に発達した縄文時代中期の土器。名前の通り、あたかも炎が燃えさかるような装飾が特徴である。

## 編集後記

センター設立8年目の今年度、本部が岐阜市三田洞へ移転しました。かつての警察学校跡地です。窓から見える山の木々の緑が一段と濃く、豊かな自然に恵まれたところです。

職員一同新たな気持ちで、よりよい調査活動をめざし張り切っています。

今年度の発掘調査は、美濃地域では東は坂下町、西は関ヶ原町、飛騨地域では高山市、古川町など11市町村16ヶ所で行っています。整理所は、三田洞をはじめ、4ヶ所です。450名余りの作業員さんが祖先の歴史発掘に汗を流しています。

今年度も、機関誌「きずな」をはじめ、タイムスリップ、速報展などをおし、埋蔵文化財に関わる情報を、広く県民の皆さんにお届けしていきます。